



東海市・知多市病院連携等協議会だより

No.5



— 地域医療の確保と充実のために — 第4回協議会を開催

12月16日、東海市立勤労センターで第4回協議会を開催し、新病院の建設に向けた地域医療と新病院のあるべき姿などについて協議を行いました。

地域医療 について

新病院の建設に向けた地域医療のあり方を、「住民」「診療所等」「中核病院」の3つの視点から協議を行い、「医療関係者、住民らが一体となって地域医療を支えることが必要。」などと意見が出されました。

委員からの意見等

- ・救急医療の体制の強化が必要。
- ・在宅医療の増加に備え、病状の急変した在宅患者を受け入れられる体制が必要。
- ・地域の医療機関からの要望にこたえられるスタッフがいる中核病院であってほしい。
- ・診療時間外であっても自己都合で受診する住民の意識を変えていくような働きかけが必要。
- ・個人病院の休診日を相互調整することにより、直接大きな病院に行く患者が減るのではないかと。

参加からの意見等

- ・今は地域において、医療、行政、住民が一体となって全人的な医療を支えていく必要がある。
- ・地域の医療連携や在宅医療を支えるためには、コメディカルやヘルパー、ボランティア、家族の役割が重要。
- ・地域医療を守るという住民自身の意識が大事。
- ・病診連携をうまく回すためには、診療所の医師に信頼されるような医療スタッフが市民病院にきちんと常駐している必要がある。
- ・開業されている医師に参加してもらえるような救急体制を考える必要がある。

新病院に ついて

新病院については、「病診連携をうまく回すために、地域の診療所から信頼される病院をつくる必要がある」、「総合医を育成する指導医が必要。」などと意見が出されました。

委員からの意見等

- ・新病院には、緩和ケア病棟も必要ではないかと。
- ・知多半島医療圏のがん治療拠点病院となるような計画づくりも重要。
- ・治療後に健康維持、増進を図っていける施設を考えてはどうか。
- ・病状に不安を抱える患者の心のケアにまで配慮した病院でなければならない。
- ・歯科口腔外科は、制度上赤字になりやすいが、引き

続き存続することを強く望む。

参加からの意見等

- ・総合医を育成する指導医が必要。指導医をいかに獲得するかが、この病院が成功するかどうかの大きな要である。
- ・病院経営の採算が合うように、よく考えて新病院のデザインを考える必要がある。
- ・病診連携をうまく回すために、地域の診療所から信頼される病院をつくらなければならない。

その他

地域医療の確保と充実に向けた意見として、「医療関係者、住民、行政職員が情報を共有し、意見交換を通じて地域医療について理解を深めることが必要。」などと意見が出されました。

委員からの意見等

- ・現在、医師不足で休診している診療科を再開することが喫緊の課題。
- ・両市長と両議長は、強い意志と情熱で医師確保を大学病院へ働きかけていただきたい。
- ・どうしたら大学病院は、医師を派遣しやすいのか、どうしたら医師の働きやすい病院となるのか、現場の医師の声を聞いて議論する必要がある。
- ・新病院を建設する過程において市民への説明や声を聞くことが重要。

- ・新病院を運営するエキスパート職員を今から養成することが必要。

参加からの意見等

- ・地域の住民、医療、保健、福祉、行政の方々が参加した学習会のような場で話し合い、それぞれの事情について理解を深めなければいけない。
- ・新病院づくりを通じて、医療、介護、保育、教育というチャンネルで雇用が生まれ、福祉、教育の関連産業が発達し地域が活性化されることによって、住民が住みたいと思うような地域になってほしい。

東海市・知多市病院連携等協議会事務局

知多半島北西部地域における公立病院のあり方について皆さんの意見をお聞かせください。

〒478-8640 知多市新知字永井2-1 (知多市民病院内)

TEL (0562)55-1155 (内線 5222、5223)

FAX (0562)55-1291

URL <http://www.city.chita.aichi.jp/byoren/>

E-mail byoren@city.chita.lg.jp